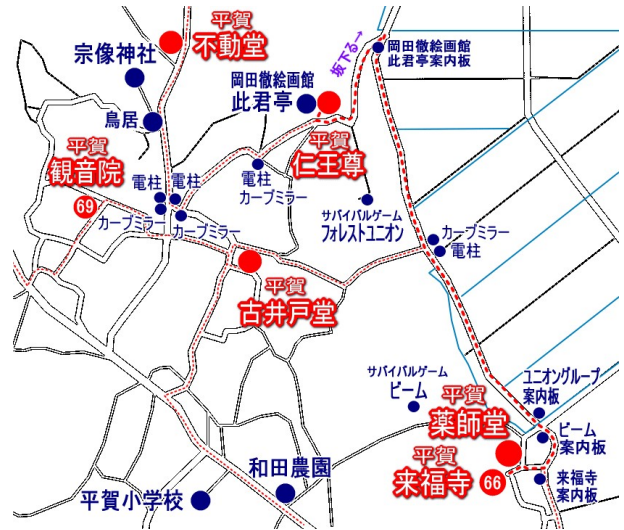


印西大師 番外 平賀・薬師堂

- 1 名称 (No.247)〔資料館：薬師堂〕
- 2 場所 印西市平賀2146付近 来福寺
平賀・仁王尊から道程約1350m
GPS座標 35.756391463637414, 140.25400917586032
- 3 由緒 真言宗豊山派
平賀村字榎台にあり来福寺末にして真言宗たり
七仏薬師如来を本尊とす安政五戊午年七月九日
来福寺焼失に付由緒不詳（中略）檀徒三百人
（印旛郡誌）
- 4 御堂 弘法大師供養塔が3つあります。（中央
の供養塔は倒れています。）
- 5 境内 薬師堂と祠と供養塔があります。
- 6 写真 （2021.12、2023.12撮影）



薬師堂



薬師堂



弘法大師供養塔

(2) 角崎大師堂



大師堂



御大師様



奉納額



子安観音堂(左)と角崎大師堂(右)



子安観音

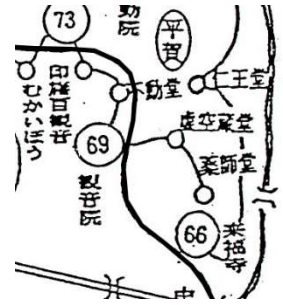


薬師堂の参道の急階段

7 情報

(1) 薬師堂の御大師様

印旛歴史民俗資料館の巡拝順路図(右図)では、「66来福寺」の北に「○薬師堂」とあるので、ここも巡拝する札所のひとつですが、階段を登った先にある薬師堂の周囲には、弘法大師供養塔が3つあるだけで、大師堂はありません。供養塔があるので霊場かもしれませんが、印西大師の札所のひとつになっていて御大師様がないというのは不自然です。いつの時代かはわかりませんが、階段を登った上の薬師堂にあった大師堂を下に移設したのではないかと、来福寺境内にある番外大師堂か、山門前の角崎大師堂の御大師様は薬師堂にあった御大師様ではないかという推測をしてみました。



2023年12月に、以前大師講の役員をされていた地元の方にお話をうかがったところ、高齢者にとって薬師堂の階段は急でキツイので、印西大師のときは来福寺の山門前で参拝を済ませているとのことでした。つまり現在でも札所のひとつとのことですが、経緯はわからないとのことでした。

(2) 2025年4月4日印西大師第4日目来福寺にて

来福寺で巡拝の方々の納経(読経)の様子を見学させていただきました。来福寺の大師堂や本堂などで納経(読経)をした後、山門を出て、まず角崎大師堂の前で納経(読経)し、次いでその横の薬師堂の階段前で納経(読経)し、最後にお接待をする集会所のような建物前で納経(読経)しました。つまり階段を登って薬師堂のところまでは行きませんが、現在でも札所であるということがわかりました。

この日、地元の役員の方からお聞きしたところ、その役員さんの知る限りでは薬師堂には大師堂はなく、あるのは供養塔だけだとのことでした。また来福寺の境内にある番外の大師堂や、山門前の角崎大師堂は、薬師堂から降ろして移設したものではないとのことでした。

もし明治初期の手引鏡の頃に大師堂があったとすればその中に御大師様が祀られていたはずです。そうなるとその御大師様(石像)は今どこにあるのかということになりますが、もともと無かったとなれば、来福寺の境内にある番外の大師堂も山門前の角崎大師堂も、独自に創建された御堂で御大師様も薬師堂とは関係ないことになります。ということから現時点では、もともと薬師堂には大師堂が無かったということにしておきます。

なお、2025年の第4日目の昼食は、山田の仲井堂の予定でしたが、何か事情があって場所が来福寺前のこの集会所のような建物に変更され、ここで少し早い昼食となったようです。この集会所のような建物前でも納経(読経)されたので、仏像が安置されているのでしょう。



角崎大師堂前で納経(読経)



薬師堂の階段前で納経(読経)



お接待の集会所？前で納経(読経)

(3) 木造薬師如来坐像（県指定有形文化財）

来福寺は、平賀にある真言宗の寺院で、正面本堂に向かって右手、境内の入り口にある急な階段を登りつめた高台に薬師堂があり、遠くに印旛沼を望むことができます。

このお堂の中に安置されているのが昭和42年(1967)県指定有形文化財の木造薬師如来坐像で、鎌倉時代の弘安8年(1285)の造像です。(新・印西名所図会)

像高56センチメートル、カヤ材の一木造で、素地像です。頭は地髪を大きく張ってつくり、髪際を強い波形とするなど鎌倉時代後期の宋風の流行に沿った作風です。螺髪は切子型で、額には白毫相を表しています。両肩をおおう納衣を着け、上から袈裟を着けています。左手は膝上で薬壺を持ち、右手は肘を曲げ、掌を前にして指を軽く曲げて、右足を外にして、結跏趺坐しています。木取りは厚手で、体部と膝前は別々に内刳を施していて、背面も丁寧に仕上げられています。胎内胸部に「こうあん八年八廿三日きのとの 仏師賢光（花押）と梨」と記した墨書銘があり、鎌倉時代の弘安8年（1285年）に仏師賢光によって造られたことがわかります。毎年7月7日に行われる薬師尊大護摩供で開帳されます。(印西市HPより)



2025.04一部追加・修正